

(3) 生産額の産業別特化係数

産業別の生産額を特化係数で見ると、全国水準（特化係数 = 1）を上回っているのは、建設業、製造業、電気・ガス・水道業となっている。

平成 12 年の生産額を特化係数で見ると、電力・ガス・水道業、建設業、製造業が 1 を上回っており、製造業の中では、非鉄金属、金属製品が大きい。

一方、金融・保険、サービス業などの第 3 次産業の特化係数は小さい。

全国と同様、本県でも産業のサービス化の進行がみられるものの、全国との比較では製造業のウェイトが大きいことを示すものとなっている。

特化係数

地域分析において、産業構造がどの分野に偏っているかを表すもので、全国との比較を行う場合によく使われる。ここでは、富山県の各産業の構成比を、全国の構成比で除したものである。

係数が大きいほど、その産業に特化しているといえる。

表1 産業別特化係数

(全国水準 = 1)

	平成7年	平成12年		平成7年	平成12年
01 農林水産業	0.94	0.87	輸送機械	0.22	0.22
02 鉱業	0.50	1.00	精密機械	0.17	0.31
03 製造業	1.23	1.22	その他の製造工業製品	0.87	1.10
食料品	0.41	0.50	04 建設	1.18	1.31
繊維製品	1.37	1.39	05 電力・ガス・水道	1.25	1.21
パルプ・紙・木製品	1.65	1.77	06 商業	0.94	0.79
化学製品	1.63	1.72	07 金融・保険	0.67	0.83
石油・石炭製品	0.67	0.48	08 不動産	0.76	0.86
窯業・土石製品	1.03	1.00	09 運輸	0.60	0.62
鉄鋼	0.72	0.63	10 通信・放送	0.88	0.74
非鉄金属	3.75	3.75	11 公務	0.82	0.87
金属製品	3.52	3.09	12 サービス	0.83	0.86
一般機械	1.09	1.02	13 分類不明	1.17	1.50
電気機械	0.62	0.75	産業計	1.00	1.00

図1 産業別特化係数

(全国水準 = 1)

